

## 帰真する友をおくる：西安回族の葬送儀礼

今中崇文 (総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学専攻博士後期課程)

制作者・著作権者：今中崇文

制作年：2009年

上映時間：15分

本作品は、中国・西安市にあるモスクで生まれた、ある回族男性の葬送儀礼の様子を記録したものである。

イスラームを信仰する少数民族である回族は、「死」という表現を忌避し、一般的に「帰真」という言葉を用いる。その葬送儀礼は「清真寺」と呼ばれるモスクから、最終的には郊外にある「回民公墓」と呼ばれる共同墓地まで移動して、迅速にまた簡素に行われる。その内容は「洗(遺体を洗い清める)」、「穿(死装束を着せる)」、「站(礼拝を行う)」、「埋(埋葬する)」という4つの言葉で表され、宗教指導者「アホン」の指導のもと、同じモスクに所属する多くの信徒が協力してとり行われる。

故人はモスクの管理運営を司る信徒組織の一員で人望も厚かったことから、その葬送儀礼には多くの人々が参列した。本来、イスラームでは葬儀に際して泣きわめくことはタブーとされるが、本事例では葬送儀礼に参列した人々がさまざまな泣き声をもって哀悼の意を表していることが見て取れる。本作品では、このような参列者による哀悼の表現に焦点を当てながら、同じモスクに所属する宗教指導者や信徒たちのつながりを描き出すことを目指している。